

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：32617
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2015～2017
課題番号：15K02442
研究課題名(和文) 京派詩人における<倫理的なもの>の美学的考察

研究課題名(英文) Aesthetics and ethics in Jing pai poets

研究代表者

佐藤 普美子 (SATO, FUMIKO)

駒澤大学・総合教育研究部・教授

研究者番号：60119427

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国哲学者朱光潜が西洋哲学・文学・心理学から啓蒙を受けた初期著作『悲劇心理学』(1933)の中で共感、特にaesthetic sympathy(美的な共感)に注目したことを明らかにし、それが1930年代京派文学を特色づける悲哀の美と 倫理的なもの に関わる重要な概念であることを指摘した。さらに、ケンブリッジ大学キングズコレッジ・アーカイブ所蔵の中国人作家の英文書簡を通して、1930年代における京派作家と英国ブルームズベリーグループとの交流の一端を示した。以上二点から、京派文学研究の新たな視角を提出した。

研究成果の概要(英文)：Firstly, this study clarifies that Chinese philosopher Zhu Guang-qian, who received enlightenment from Western philosophy, literature and psychology, paid his attention to "aesthetic sympathy" in his early work *The Psychology of Tragedy* (1933). Thereby this study also points out that "aesthetic sympathy" is an important concept related to the beauty of sadness and "ethics" that characterize Jing pai (Peking school) literature in the 1930s. Secondly, by investigating the English letters written by Chinese writers, which are kept in King's College Archive of Cambridge University, we show the interaction between the Jing pai artists and British Bloomsbury group in the 1930s. From the above two viewpoints, we present a new perspective of Aesthetics and "ethics" in Jing pai literature research.

研究分野：中国近現代文学

キーワード：中国現代美学 京派文学 朱光潜 美的共感

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究が対象とする「京派」とは20世紀中国の20～30年代、北京を拠点に活動した文学者たちを指す。彼らは綱領や組織をもつ文学団体ではないが、1930年代上海を活動拠点とした左翼系文学に対してリベラルな立場を貫き、芸術上の探求に専心したという共通の特色を持つ。そのほとんどは北京出身者ではなく、作風が異なるにもかかわらず、その「風格」と「審美意識」に共通する特色があることから文学史上「京派」として括られる。

「京派」への関心は中国で1980年代以降高まり、個別の作家研究の深まりとともに、同派の定義や位置づけをめぐる議論が活発になった。しかし周作人・沈從文など個別の京派作家の研究が深化する一方で、同派に共通する核心部分については、政治的にはリベラルで、社会性の希薄な芸術派という一般的印象以上には分析が深められていないのが現状である。

(2)代表者の十数年にわたる詩人研究によれば、京派文学には総じて日常生活における美的なものの享受や、人間と人間、人間と自然の情愛に満ちた交流に内在的価値を認める意識が際立っている。それは文学上の方法ではなく、人間や人生についての基本的な見方・態度であり、むしろ倫理的なものとも名付けるのが相応しい。そこで、「京派」の理論的支柱である現代美学の創始者朱光潜の共感を理論的に考察する美学に注目した。

朱光潜は1920代後半、英国とフランスの大学で西洋古典学・西洋美学を学び、それを資源として彼独自の美学を構築した。また当時彼は若い世代に向けて、物と心の関係、生活の中的美や情感についての見かたを積極的に発信している。彼が1933年帰国後、そのサロン「読詩会」に集まった京派文学者たちも少なからずその美学に影響を受けたと考えられる。しかし朱光潜については、早期美学の観

念論のみが問題にされ、京派文学との関係はほとんど検討されたことはなかった。本研究は朱光潜の早期著作にみえる美と倫理に関する概念の再検討を試み、京派文学の資源について、従来文学研究になかった倫理的なもののという視角から、中国現代文学の一つの系譜を明らかにすることをめざした。

(3)代表者はこれまでもつばら馮至や卞之琳を中心とする個別の京派詩人の詩歌テキストを研究対象としてきたが、本研究では詩歌のみならず倫理的世界がより現れやすい散文にも考察の対象を広げ、それらの散文に見える倫理的なものに、主として「美感(美的体験)」、「人間的な交流」、「日常性」の観点からアプローチし、京派の散文が新たに切り開いた文学の倫理的境界を明らかにすることをめざした。

2. 研究の目的

(1)中国で「美は、近代以降、西洋から移入された概念を多分に含んでいる」(『岩波哲学・思想事典』1998)ため、現代中国における美を考えるにあたっては、中国伝統美学をふまえた上で、西洋哲学・美学の個々の概念と照らし合わせる必要がある。まず、朱光潜の早期の美学著作『悲劇心理学』の「悲劇」に関わる諸概念を整理し、合わせてその中の真美善に連なる基本概念について、西洋哲学における基本概念との異同を明らかにした上で、草創期の中国美学の特色と文学に対する貢献を明らかにする。

(2)朱光潜が20年代欧州留学中に形成した美学概念は、1930年代内外の危機に直面していた中国社会を背景として、京派文学者にどのような「人生哲学」を形成させたか、また当時主流であった左翼文学運動とどのような点で一線を画していた点についても考察を進める。

(3)中国古典と伝統美学の教養を持ち、さらに西洋哲学や心理学の影響を受けた朱光潜の美学概念を分析するにあたっては、西洋古代哲学を専門とする研究分担者の協力を仰いだ。朱光潜に限らず、20世紀前半、西洋哲学・美学を受容する中で形成された現代中国美学を考察するためには、西洋哲学・美学の研究者との共同作業が求められ、今後もさらにこうした多領域との連携が必要になると思われる。本研究は、専門領域を同じくする研究者と連携するだけでなく、西洋古典学からのアプローチを得て、20世紀中国の現代文学や現代美学が西洋哲学・美学とどのように出会い、関わりあったかを解明する試みでもある。本来異なる領域にあると考えられる文学と哲学だが、中国20世紀前半の文学や朱光潜らの美学にあっては、両者は決して切り離すことのできないものである。それゆえ本研究は、文学と哲学（美学）という異なる視点からのアプローチによって現代中国における文学の性格と機能を明らかにすることをめざした。

(4)本研究は従来の文学研究が閉じられたまま自己完結するものになりがちであることの反省に立ち、文学作品がひとしく、私たちの人生や日々の生活、人間関係に関わる思考と感覚に 美 と 倫理的なもの を通して大きな啓発を与えることを明らかにし、文学の可能性を再認識させることを企図している。本研究によって、二十世紀中国文学の主流とは別に、詩と哲学、文学と倫理が相互に作用しあう境界を創出した中国現代文学が存在したことの意義を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は主に(1)文献資料の精確な解読作業と論文および学会報告による成果発表、(2)現地での資料調査の以下二方面から行った。

(1)平成27年度と平成28年度は朱光潜の

1920～30年代における美学著作『悲劇心理学』を中心とした美学関係の基礎文献を精読し、西洋哲学における基本概念の影響と受容について考察した。さらに朱光潜の先行研究の中で最も精緻な論考である商金林『朱光潜与中国現代文学』（1995）や近年増えている「人生美学」の観点からの新しい論考にヒントを得た。平成29年度は2年間の成果を学会誌や国際シンポジウムで発表するとともに、現代中国美学と京派文学を一般の人々に理解してもらえるような形の冊子にして刊行した。本研究の重要な柱である美学上の諸概念の整理については、研究の精度を高めるために西洋古代哲学を専門とする分担研究者と共同して精読の作業を進め、 倫理的なもの と 美 に関わる基本的な概念 美的態度、快感、共感、憐れみ、恐れ、カタルシス を通して、朱光潜の当時の問題意識を整理した。平成27年度と平成29年度には、北京で開催された新詩のシンポジウムに参加し、京派の馮至と朱光潜に関する報告を行った。

(2)平成28年度は英国ケンブリッジ大学の周作人研究者スーザン・ダルバーラSusan Daruvala氏と交流し、京派の美学に関する研究上の知見を交換した。その際、ケンブリッジ大学キングズコレッジのアーカイブで、1920年代以降の文学・思想に大きな影響を与えた英国のブルームズベリーグループに関する資料を収集することができた。

本研究は文学研究者に向けて発信するだけでなく、同時代の中国や中国文学に興味のない一般の人々に向けて、20世紀前半の中国文学における 倫理的なもの が、どのような点で21世紀を生きる私たちの問題と関わり、何を共有できるかを伝えようとするものである。よって、本研究で得られた成果は学術誌に発表するだけでなく、いずれは一般の人々が手に取れる形の書籍にすることをめざして、朱光潜や京派文学者に関する論

文だけではなく、詩や散文の翻訳を収めた冊子を刊行した。

4. 研究成果

本研究の成果は主に以下の二点にまとめられる。

(1) 京派の理論家である朱光潜の早期美学の代表作『悲劇心理学』(1933)を精読し、西洋哲学の影響と受容について考察した。代表者は西洋古代哲学を専門とする分担研究者と共に、同書の英文版と中文版の読み合わせを定期的に行い、基本概念の分析を通して朱光潜の問題意識とその方法に検討を加えた。その結果、「悲劇」における「快」と「共感」、「憐れみ」と「恐れ」は朱光潜の倫理的なもの と 美的体験 をつなぐ重要なキー概念であること、特に Aesthetic Sympathy (美的共感) と Psychical Distance (心理的距離) に注目すべきことが分かった。また、彼がショーペンハウアーやニーチェら 19 世紀哲学の「悲劇」観の検討を通して、苦痛に満ちた人生の審美的解釈と芸術との関わりから美学を構想している点も明らかになった。

一般的に、朱光潜は文芸面での「自由主義者」とみなされるが、個々の著作については具体的な検討がほとんどなされていない。また京派文学との関係で、その美学観念が積極的に取り上げられることもなかった。本研究によって、京派と朱光潜をつなぐ重要な鍵が、文学を通じた 倫理的なもの の形成にあることを指摘できたと考える。

(2) 海外資料調査により、新たな資料を発掘し、今後の京派研究および共同研究のための準備を整えることができた。平成 28 年度の夏季休暇中に英国ケンブリッジ大学を訪問し、京派の代表的作家周作人の研究者 Dr. Suzan Daruvala 氏と京派美学に関する研究上の知見を交換した。またケンブリッジ大学キ

ングズコレッジ・アーカイブで、京派作家と関わりの深い葉君健が日中戦争期に友人ジュリアン・ベルに宛てた英文書簡を確認する機会を得て、1930 年代における広義の京派作家とブルームズベリーグループと関わりの深い英国文学者の交流の一端を明らかにすることができた。当初、目的とした 1920 年代ケンブリッジ大に留学した京派の葉公超の資料を探し当てることはできなかったが、同大学キングズコレッジ・アーカイブには京派作家凌叔華に関わる資料が多く収蔵されていることがわかり、今後さらなる調査が期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

佐藤普美子・河谷淳、朱光潜『悲劇心理学』における悲劇論の検討、駒澤大学総合教育研究部紀要、査読無、第12号、2018、pp.1-20

佐藤普美子、明暗交錯的哲理小詩 冰心『春水』再読、愛心(冰心文学館)、査読無、2017年夏季号/第63期、pp.44-46.

佐藤普美子、小山正孝が訳した中国現代詩 王独清と馮至のソネット、感泣亭秋報、査読無、第12号、2017、pp.21-27.

佐藤普美子、葉君健とジュリアン・ベル 日中戦争前夜の葉君健英文書簡を中心に、駒澤大学総合教育研究部紀要、査読無、第11号、2017、pp.109-126.

河谷 淳、『分析論前書』B25における「アパゴーゲー」の問題—「アパゴーゲー」と「アブダクション」— 文化、査読無、第35号、駒澤大学、2017、pp.146-166.

佐藤普美子、葉公超の“行かなかった道”、

トンシュエ(同学社)、査読無、52号、2016、pp.14-15.

佐藤普美子、美感与倫理：馮至的“交往”境界、駒澤大学総合教育研究部紀要、査読無、第10号、2016、pp.197-210.

佐藤普美子、1920年代中国新詩における日本近代詩歌の受容 周作人と馮乃超の場合(要旨) 一九二〇年代的中国新詩与日本近代詩歌的關係：以周作人与馮乃超为例(中文)、駒沢史学、査読無、第85号、2016、pp.136-154.

河谷淳、「様相の哲学」としての『詩学』理想(理想社)、査読有、696号、2016、pp.15-25.

河谷淳、ハーストハウスによる「規範的な徳倫理」擁護論の検討、文化、査読無、第34号、2016、pp.94-108.

佐藤普美子、美感與倫理相遇的地方：馮至的「交往」境界、中國現代文学(台湾)、査読有、第27期、2015、pp.151-166.

〔学会発表〕(計4件)

佐藤普美子、“切身”而又“有距離的”：“心理的距離”說与讀者閲讀批評、新詩百年：中国当代新詩理論批評研討会、2017年11月4日、北京(中国)

佐藤普美子、講評：關於《咸寧五七幹校詩歌一瞥》、首爾-東京中國現代文學研究對話會、2016年12月27日、梨花女子大学中文系、ソウル(韓国)

佐藤普美子、与馮至先生的文学因縁 / 美感与倫理：馮至“交往”境界、紀念馮至誕辰110周年座談会 / 學術研討会、2015年9月19日、中国現代文学館、北京(中国)

佐藤普美子、1920年代中国新詩における日本近代詩歌の受容 周作人と馮乃超の場合、駒澤大学シンポジウム「近世・近代における日文化交流 思想と文学に即して - 」2015年7月11日、駒澤大学(東京都世田谷区)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 普美子 (SATO, Fumiko)
駒澤大学・総合教育研究部・教授
研究者番号：60119427

(2) 研究分担者

河谷 淳 (KAWATANI, Atsushi)
駒澤大学・総合教育研究部・教授
研究者番号：60327749

(3) 連携研究者

伊藤 徳也 (ITO, Noriya)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授
研究者番号：10213068

(4) 研究協力者

姜涛 (JIANG, Tao)
北京大学・中国語言文学系・教授